

八雲

第50号
(平成25年9月発行)

大東高校校歌

1 勝田の森の奥深く
文の林に分け入りて
学びの花を摘まんかな
袂の花のほこらひに
我が青春は謳うべし

2 夕影たかく秋深き
織部の山に風かよふ
かの夕づつの訪ひを
返らぬ夢ときくなれば
手を取りていざ共に哭け

3 理想の洋は遙かなり
真理の道の遠ければ
あゝカルデアの牧人が
尋ねし星を今更に
中天高くよまんとす

4 東天高く曙の
光は走る今にして
平和の鐘のひびくとき
自由と愛の舵をとり
いざ大瀛に棹さゝん



活発な支部活動を



八雲会会長 景山純孝

立秋を過ぎましたが暑い日が続きます。日本中の到る所でゲリラ豪雨による被害が報じられ、島根県でも津和野は激甚災害地に指定されたとか、八雲会の皆様方の中に被害にあわれた方があるのではないかと心配しています。

さて八雲会本部では6月16日大東高校で役員会を行い24年度の事業並びに決算報告、25年度の事業計画並びに予算の決定を行いました。事務局から生徒減により八雲会活動費が年々減少している旨の報告がありました。7月13日大東交流センターで総会を行いアトラクションで、30名を越す吹奏楽部の演奏に70名の出席者全員が圧倒されました。

今年の支部活動は6月8日東京支部総会から始まりました。東京支部を30年以上支えてこられた支部長奥田勲氏と幹事長野々村興太郎氏に、八雲会から感謝状を贈呈しました。両氏は東京で大東高生が大会に出るときは、応援団を繰り出して生徒を励まして頂きました。ご二人共これまで過ごされた人生の半分を八雲会に尽くしていただいたこととなります。

7月20日は広島支部総会でした。一昨年まで支部長であった富久禮識氏は、支部活動が途絶えていたところを困難を越してまとめあげ30年に手が届く程の長い間支部長を務められました。今回の支部総会の席上で感謝状を贈呈しました。東京支

部、広島支部共に若い方が後を継がれこれまでと同様に支部活動を支えて頂くこととなります。

ここで特筆すべき事は、6月23日に地元佐世支部が復活し発会式が行われたことです。佐世支部は長い間活動を停止していました。錦織一夫氏を発起人に多くの方の応援で180名を越す会員（家族会員を含む）を集められました。23日には新支部長錦織涿郎氏のもと、発会式に先だってキーボード伴奏による校歌を4番まで斉唱しました。佐世の皆さんのこの日への思い入れの強さを感じました。懇親会は夜半まで続けました。東京、広島および佐世支部共々に心からイヤサカを送ります。

本部の総会の席でかって東海支部会に参加したことがあるという方がおられました。東海支部がいつ活動を停止したのか、最後の支部長は誰だったのかご存知の方がおられましたら本部へご一報ください。

これから地元の支部会活動が始まります。どうか若い会員を掘り起こし元気のある支部を作って頂きたいと存じます。

5年後の平成30年には創立100周年を迎えます。今、本部では記念事業を検討中ですが、文武両道で頑張っている若き後輩達の為に八雲会で支援できる最大限のことをしてやりたいと思うことしきりです。



八雲会会員の皆様へ



校長 奥井 彰

今年は7月上旬の梅雨明けと共に真夏日となり、更には連日の猛暑日。うんざりしていると、今度は雷を伴う局地的な大雨。不順な天候が続きますが、八雲会会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

皆様方には平素より、本校の教育活動につきまして物心ともにご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて早速ですが、皆様方に大東高校の現状につ

きましてご紹介いたします。

まず施設面ですが、4年間にわたる校舎の改修工事が、前年度末をもってすべて終了いたしました。視聴覚教室などが入る5棟が新しく完成し、また2棟3階も耐震化工事を終えて大講義室や教室として使用できるようになりました。校舎内外ともに充実した施設設備の中で、生徒たちは勉学に部活動にと励んでおります。

この3月には卒業生140名を送り出し、皆様方

のお仲間に入れていただきました。入れ替わりに、4月には124名の新生を迎え入れ、全校375名でスタートを切りました。昨年は395名でしたので、ちょうど20名ほど少ない数でのスタートとなりました。数は少ないながらも、生徒たちは大東高校の校訓である「誠実・勤勉・高邁」の精神を受け継ぎ、礼儀正しくきちんとした学校生活を送っており、地域の方にも愛されている学校であるというふうに自負しております。

本校は従来より「文武両道」を教育活動の中核に据えており、本年度は更にその質を向上させることを学校目標のひとつに掲げております。

学力向上のために、特進クラスの設置、習熟度別少人数指導や学び直しの授業、更には自学自習の習慣作りのために休日の学校開放などを行っています。この3月の卒業生の進路概況は進学113名、就職21名、進学準備6名でした。今後も生徒たちにしっかりとした学力、学ぶ力をつけさせて、それぞれの進路目標を達成させたいと思っています。

次に部活動の方ですが、5月下旬から6月にかけて行われた県の「総合体育大会」には、本校から9種目、186名の生徒たちが参加しました。成績は、昨年の優勝には届きませんでした。Bグループで男女総合と男子総合で共に2位と健闘しました。その結果、8月初旬に北部九州で開催された「全国高校総体」には、男子のバドミントン部と女子の空手道部が出場しました。また、野球

部の島根県予選では、7年ぶりにベスト8に進出しましたが、私学の厚い壁に準々決勝で敗退しました。若いチームですので、秋以降の活躍に期待しています。一方、文化系の部活動は3月に加茂テラスとラメールを会場に2日間にわたる合同発表会を行いました。保護者、地域の方に日常の活動状況を発表することは、部員たちの大きな励みとなりますので、今後も継続していきたいと考えております。

部活動を離れますが、今夏「東日本大震災の復興ボランティア」に17名の生徒が応募してくれました。結果的には、制限枠が設けられ男女3名ずつ計6名の参加にとどまりましたが、車中泊2日を含めた4泊5日の日程で宮城県南三陸町に出かけ、炎天下のもと復興ボランティアに携わりました。その6名の貴重な体験談は、学園祭のステージ発表において全校で聴きました。

以上学校の現状をご紹介しましたが、今年3月の卒業生を加えて、八雲会の会員数は12,962名となりました。5年後の創立100周年に向けてのカウントダウンも始まっております。これからも皆様方の志をしっかりと受け継ぎ、「高邁な目標に向け、誠実な心と、勤勉な態度で努力する」そんな大東高校生を育てて参りたいと考えておりますので、今後とも母校に対するご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成25年度 八雲会総会

平成25年度の八雲会総会を7月13日（土）に、大東町地域交流センター研修室において開催しました。会に先立ち茶道部によるお手前と吹奏楽部による演奏が披露されました。総会は、景山純孝会長、奥井彰校長の挨拶に始まり、議事では、昨年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・会計予算等について報告がなされました。総勢73名の出席があり、総会後の懇親会も大盛況となりました。総会は毎年7月の第2土曜日に開催することになっています。来年度さらに多くの方に出席していただけることを願っています。



茶道部によるお手前



吹奏楽部による演奏

広島支部会

八雲会広島支部は、平成25年度の総会を7月20日八雲会本部から景山会長、奥井副会長(大東高等学校校長)及び森山幹事(大東高等学校教諭)をお迎えし、広島市南区のホテルニューヒロデンに於いて開催しました。



富久前広島支部長ご挨拶



佐藤広島支部長ご挨拶

当日は広島市及びその近郊から会員20名が出席し、佐藤眞事務局長の司会で始まり、まず総会に先立ち、この一年間で逝去されました皆様の御霊に対し黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。

総会に移り、佐藤和紀支部長から開会にあたり「本日皆さんには、暑いところ元気で出席頂き嬉しく思うと同時に感謝申し上げる。ただ広島支部は高齢化しており会員の拡大を図りもっと若い人にもたくさん参加して頂くことが急務で、皆様にはより一層の協力を頂く様よろしくお願ひ申し上げます。」との挨拶がありました。

続いて景山純孝会長のご挨拶、奥井彰校長先生からは大東高校学校の近況報告があり、景山会長のご挨拶では、八雲会の各地区活動状況、中でも大東佐世地区活動内容を詳しくご紹介頂き、高齢化などの課題を抱えている我々広島支部にとっても大変参考になるお話でありました。

また本校の卒業生で、原発事故の風評被害で苦しんでいる福島県石川町の町長として頑張っているいらっしやる加納武夫さんのお話がありました。

奥井校長先生からは、進路状況や部活動報告が

あり、中でも野球部の活躍について、今県大会で頑張っているが年々強くなってきておりこの2～3年で甲子園出場も夢ではない。とのことで夢が実現したら相当の支援をしなくては。と参加者一同心を一つにした感がありました。

このあと、27年間の長きにわたり八雲会広島支部長として、同会を引っ張り推進頂いた功績に対し八雲会景山会長から、富久禮識前支部長へ感謝状が贈呈されました。

支部会計の報告の後、富久顧問の乾杯の音頭で懇親会に入り、久しぶりの出会で賑やかに会話が進み、お互いの近況を確かめ合いました。

森山先生から大東高校の現在の様子などを紹介するスライドを映して頂き、参加者の方々の懐かしい場面もあり盛り上がっていました。

カラオケ、校歌、応援歌、壮行歌が歌われるなか、瞬く間に時間は過ぎ、司会者の二次会の案内で若手NO1の長妻幸宏さんが、来年の再開と広島支部活性化の約束し中締めしました。大多数の方に同ホテルでの二次会に参加頂き、皆さんカラオケを歌い、自慢ののどを披露し、賑やかで和やかな雰囲気の中かで支部総会が終わりました。

(八雲会広島支部事務局長 佐藤 眞)



広島支部会参加者記念撮影

関東支部会

今年度の八雲会関東支部会が6月8日に銀座「香家」で開催されました。

母校から奥井校長、高橋先生、八雲会本部から景山会長を迎え、総勢19名の参加で行われました。この総会においては、支部長 奥田勲氏、事務局長 野々村興太郎氏の退任の報告と、新しい支部役員(支部長 鏑木茂雄氏、事務局長 佐藤 博芳氏、理事 持田 啓司氏)の選出を行いました。

奥田さん、野々村さんには1978年(昭和53年)以来、長期にわたり多大なご尽力をいただきました。ご退任にあたり、お二方に八雲会本部から感

謝状が贈呈されました。

景山会長のご挨拶、奥井校長から大東高校の近況報告が行われ、その後懇親会に入りました。

懇親会では、大東高校の現在の様子などを紹介



奥田前関東支部長へ感謝状贈呈



野々村前事務局長へ感謝状贈呈

するスライド、参加者の近況報告もあり盛り上がっていました。最後は、校歌を参加者全員で歌い和やかな雰囲気の中で閉会しました。

(八雲会関東支部事務局長 佐藤 博芳)

新支部長の抱負

この度、初代支部長 野々村忠治氏が発起された1951年(昭和26年)の第一回の総会から数えて60年以上の歴史ある八雲会関東支部会の第三代支部長を拝命しました、32期卒業の鏑木 茂雄です。

多大なるご尽力をされた、奥田さん、野々村さんの後任としまして、微力ではございますが、同期の佐藤さん、持田さんと頑張っていきたいと思いをします。

奥田さんには顧問として私たちの相談に乗っていただくとともに、ご意見を賜りますようお願いいたします。

6月8日の関東支部会では、私たち同期の方々も初参加で出席して頂きましたが、やはり同期の人がいることで出席しようと思われる方も多いと感じました。今後は、幅広い年代の方に出席頂けるよう、知恵を絞っていきたいと思います。大東高校の関係者の方、関東エリアだけに及ばず、全国の八雲会の方の協力を賜りやっていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



関東支部会参加者記念撮影

関西支部会

今年度の八雲会関西支部会は、平成26年2月に開催予定にしております。詳細につきましては後ほどご案内いたします。

連絡先 関西支部事務局 高橋 潮
TEL・FAX 0745-73-0553
Eメール ushiot2000@yahoo.co.jp
携帯メール ushiot636@ezweb.ne.jp

おりべ5期の会「卒業60周年&傘寿の会」

高校第5期卒業生の同窓会、愛称「おりべ5期の会」(代表・蓮岡法暉)は6月24日～25日、玉造温泉・保性館で、会員90名中27名が参加して「卒業60周年&傘寿の会」を開催しました。今年は、卒業60周年と傘寿の二つの慶事が重なったのです。

冒頭、冥界に先立った21名の学友に黙祷。次いで遠路大阪市から駆け付けた永瀬哲雄君、渡邊靖子さんの発声で高々と乾杯、佐々木省二君(松江市)の司会のもと、楽しい同窓会がスタートしました。

会の締めは、嘉本静雄君(守山市)、中林延子さん(雲南市)の元気印コンビによるバンザイ三唱。

次いでこの会の定番、「校歌」と「星影のワルツ」を入江早苗さん(松江市)の指揮で大合唱。楽しいひと時を全員で共有できたことを喜び合いました。

これから先は、お互い生き残り競争。元気な顔を確認合うために、今後は、これまでの2年置き開催の同窓会を、毎年開催に変更することを確認し合いました。

(2013・6・26)



母校を訪ねて

高校第10期
田中 力

古希が過ぎてから数年が経ちますが、時々高校時代を懐かしく思い出します。それは、学校の佇まい、恩師や友人、そしてクラブ活動の「思い出」などです。

昨年の秋、卒業してから54年振りに母校を訪れる機会に恵まれ、同期生数人で訪問させていただきました。

◆半世紀の変貌に驚嘆

母校へ行く途中、大東の街もずいぶん綺麗になり、雰囲気も変わったと感じながら到着すると、ご多忙中にもかかわらず高橋隆正先生に出迎えていただきました。丁度、雨が降っており傘を広げての出迎えには恐れ入りました。

54年振りに出会った母校は、校舎が現代的で整然と並んでおり、グラウンドも拡張され、当時の面影は殆ど残っておりませんでした。唯一、校門付近だけは僅かにその雰囲気を感じることが出来ました。

近年、学校が変化していることは会誌「八雲」で少しは認識していましたが、学校を目の前にすると、54年の変化に驚嘆すると共に、半世紀という歳月の意味深さを改めて知らされました。

会議室に通していただき、高橋先生から学校の現状についてのご説明を聞きました。学校要覧等の資料では、「校則」「教育目標」「運営目標」が詳細に設定されていました。後日、再読し、学校運営の根幹である「何を求め」「何を学び」「どうあるべきか」をしっかりと提唱されていたことに感銘しました。

学校運営組織で、生徒会が主体としている、体育部門会と文化部門会に所属する部活動のご説明をいただき、実際に校内を見学しました。活動拠点である部屋（教室）では、整理整頓が行き届いており、用具や備品が整然と保管・管理されており感心させられました。この恵まれた教育環境の下、生徒たちは、勉強と部活動に励み、素晴らしい成績を残している、その努力にエールを送ります。また、各クラブが、地域への社会貢献を積極的に行っていることは、とても貴重なことだと感じました。



昨年10月関西支部会にて 前列左が筆者

◆「大東高校魂」を

見学の際、廊下で行き交う教職員や、生徒達から爽やかなご挨拶を受けたこと、窓越しに見た授業中の生徒達が熱心に勉強している姿がとても新鮮に映りました。この在校生が、お互いに尊敬と信頼からなる「友情」をいつまでも大切に、何事にも高校生活で培った「大東高校魂」を存分に発揮して、将来へ飛躍することを願い期待しているところです。今後も、校訓の「誠実」「勤勉」「高邁」の下に、益々のご活躍とご発展を祈りつつ、母校を後にしました。

お陰様で、永年の念願であった母校への訪問が出来ました。今回の訪問に際し、先生方には貴重な時間を割いていただき、誠に有難うございました。誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。



織部祭 文化講演会

今年度の織部祭の初日、8期卒業生の加納武夫さんをお迎えし、「チャンスは日々の努力から」という演題で講演をして頂きました。講演の途中、同級生の一人や知り合いの新聞記者を壇上に呼んで紹介

したりしながら、チャンスをつかむための役に立つヒントを話されました。50年以上も前の高校生の頃のことから始まり、福島ではなく島根出身でありながら町政に携わることになるまでの様々な人との出会い、そして、町長として活躍されている現在までの人生についての講演は、まだ社会に出ていない在校生にとって、有意義な時間になりました。企業の責任者として、また石川町の町長として、人を動かし、人に認めてもらう大変さを経験し、その節目節目に故郷の友の存在、父母の教えに感謝する人生を送ってこられました。大震災直後の避難のかたの受け入れでは、町の電器屋さんによる暖房の確保、町民のおにぎりなどの差し入れ、毛布を背負ってかけつける人、また、ふる里雲南市からの物心両面での様々な支援など、人を思いやる気持ちのありがたさについて話がありました。加納氏の考えるチャンスをつかむヒントとは、「何でも相談できる友を二人持つこと」、「人をほめること」、「整理整頓を心がけること」、「人に感謝する気持ちを忘れないこと」、「思ったことはできる、思わないことはできない」でした。誰もが共有していかなければならない話をたくさん聞くことができた講演会となりました。なお、講演後には、後輩たちのためにとご厚志を頂きました。



* 加納さんのプロフィール *

島根県立大東高等学校を卒業後、上京し夜学に通いながら働く。昭和39年に埼玉県川口市内に会社を立ち上げ、続いて昭和45年に福島県石川町に福島工場を設立し、同時に責任者として赴任したのをきっかけに福島へ移る。その後も、新潟工場の新設に続き、大阪・名古屋・東京に営業所を設け、常務取締役として勤務。平成18年9月に行われた石川町長選挙では大差で当選し、現在に至る。

景山純孝会長（高9期卒） 『瑞宝小綬章』おめでとうございます。

八雲会の景山純孝会長が、平成24年11月9日に秋の叙勲を受けられました。



経歴

- 大東町東阿用生まれ
- 昭和32年 大東高等学校卒業（9期）
- 昭和36年 島根大学教育学部中学四年課程理科卒業
- 昭和39年 松江市教育委員会学校教育課指導主事
- 昭和42年 松江市立女子高等学校教諭
- 昭和55年 益田高等学校教諭
- 昭和59年 松江東高等学校教諭
- 平成5年 横田高等学校教頭
- 平成8年 大東高等学校校長
- 平成11年 松江市立中央幼稚園園長
- 平成13年 大東町教育委員会委員・委員長・教育長、雲南市教育委員会教育委員
- 平成20年 雲南市阿用公民館館長、阿用交流センター長

永年にわたり島根県教育の充実発展に渾身の努力を傾けられました。現在は、旧大原の退職校長会支部長として、また島根県レッドデータブック改訂協力員として忙しい毎日を送っておられます。



災害派遣業務に従事して／東日本大震災

宮川 勉 (高校42期、雲南市市役所勤務)

忘れかけていませんか？ あの東日本大震災
大津波により、多くの尊い命が奪われたことを
家族や住む家を失った多くの人々が、
今なお仮設住宅で不自由な生活を強いられていることを



沿岸部：寺島地区の被災状況 (H23.3)

初めて被災地を訪れたのは、震災発生から約2週間後の3月下旬。雪が散らつく寒さの中、辺り一面泥色で異様な臭いに包まれ、目の前にはこの世のものとは思えない凄まじい光景が広がっていました。ボランティア活動でたった1週間の滞在でしたが、避難所で暮らす子供達や泥だらけで奮闘する高校生ボランティアなど、当時の様子は本当に衝撃的で決して忘れることはありません。その後、全国市長会を通じて支援要請が寄せられた時“ここで決断しなければ、後できっと後悔する…”と思い、家族の理解や周りの協力もあって昨年4月から一年間、被災地で災害派遣業務に従事することになったのです。

宮城県 岩沼市役所 防災課に配属され、防災計画の見直しや防災無線の整備、防災訓練や研修会の開催、各種対応マニュアルの修正などに携わりました。岩沼市は今回の大津波で市域の約48%にあたる29km²が浸水し、死者186名、全半壊を含めた倒壊家屋は2,342棟に上るなど甚大な被害を受けましたが、石巻や南三陸と違い市の中心部が無傷だったのは不幸中の幸いでした。この点が被災3県の中でもトップランナーとして復興を進めている理由の一つだと思います。

岩沼市が策定した震災復興計画の中に、避難場所と多重防御の機能を有した「津波よけ『千年希望の丘』の創造」があります。千年希望の丘は、震災瓦礫などを活用して作ったいくつもの丘（盛土）によって津波の力を減衰させるもので、昨年5月に開催された植樹祭には、市民ら約1,000人が参加してタブノキやシラカシなど約20種の苗木6,000本を植えました。運営補助として参加した私ですが、大人に混じって高校生や小さな子供たちまでもが真剣に植樹する姿に感動、復興へと歩きだした小さな足音が、これから更に大きく力強くなっていくことを切に願う一日となりました。



「千年希望の丘」植樹祭 (H24.5)

9月1日「防災の日」には、市内沿岸部を対象に津波を想定した住民参加型の避難訓練を行いました。震災以降、本格的な津波避難訓練は被災地初ということもあり、約1,500人の参加で大々的に報道されました。震災の教訓から、新たな緊急避難場所として設定したのは高速道路や高架橋などの高い場所。震災を受けて浮き彫りになった課題や問題は山積み、繰り返し行った打合せ協議の中で生まれる摩擦や思いが通じないジレンマなど本当に苦労の連続でした。いろいろと反省や課題を残す訓練となってしまいましたが、この結果をきちんと検証し、今後の訓練のあり方や地域防災計画の見直しに反映させなくてはと感じたところです。

震災発生から丸2年が経とうとしていた今年の3月初め、ラジオで「復興はまだまだこれから・・・月日の経過とともに全国の人々から忘れ去られてしまうのが心配

との声を耳にしました。島根に帰ってから一番驚いたのは、震災関連の情報に接する機会があまりにも少ないということでした。3月末まではテレビや新聞で毎日のように震災関連ニュースを見聞きしていましたが、帰った途端に情報が途切れ、普段の会話の中で被災地の話題を口にするのがほとんどなく、残念な気がしてなりません。あんなに身近だった東日本大震災が、島根にいるとはるか遠くに感じてしまい、震災の話題がどこからも聞かえてこない現実に、今でも戸惑っています。それでもあえて言いたいのは、被災地では今でも夕方のトップニュースは震災復興に関するものであり、二年半経った今でも多くの被災者が変わらず大変な思いをしながら生活している、復興はまだまだ進んでいないということです。そして、それらのことを私たちは決して忘れてはいけないと思うのです。



津波を想定した避難訓練 (H24.9)

最後に、岩沼市職員として過ごしたこの一年、私にとっては本当に貴重な経験でした。自分の未熟さを改めて感じる一方、助け合いの気持ちや困難に立ち向かいながらも歩み続けることの大切さなど、多くを学び得たことは私の人生でかけがえのない財産となりました。何とか無事に終わることが出来たのも、家族の支えや協力があったからこそだと改めて感じています。また、大変多くの皆様方から励ましの言葉や労いの言葉をかけていただきましたことに対し、この場をかりて改めて深く感謝申し上げます。たまたま縁あってこのような機会に巡り合いましたが、この繋がりを大切に今後でもできる限り、何らかの形で被災地と関わっていかれたらと思っています。実は、今年の秋に派遣職員として一緒に過ごした仲間数名がプライベートで島根に遊びに来ることになりました。雲南市の魅力と出雲大社の遷宮を勉強し直して、うっとうしいくらいの熱いおもてなしをしようと思っている今日この頃です。

ボランティア活動

村松 憲 (高校19期)



ケーキ贈りボランティア

村松憲（むらまつけん）さん66歳は加茂町出身で、大東高校を卒業後県外で就職した後、木次町里方で飲食店を経営しておられます。高校時代に実家が豪雨に遭い、そのときに受けた支援への恩返しの気持ちで、ボランティア活動を続けておられます。

「日本列島ふれあいサンタクロース」として毎年クリスマスの時期に自ら車を運転し、サンタクロースの姿でショートケーキを贈っておられます。実際にお会いして話を聞いたり、新聞記事を読んでみると、その活動に圧倒されてしまいます。活動の原動力について尋ねると、「社会に恩返しを」、「(被災者に)一日でも早く元の生活に戻って欲しいと願って」、「喜んでもらえるのが何よりうれしい」と答えが返ってきましたが、それでもなぜか長くにわたり（35年間）活動できるのか、ただただ驚くばかりでした。

大東高校の後輩へ一言、とお願ひしたところ、「絶えず一步前進の気持ちで毎日を送りなさい。気持ちを行動に移すことが大切です。」と答えていただきました。今年も、クリスマスの時期になるといろいろなところを訪問されるそうです。忙しいほうが村松さんには合っていると思いますが、くれぐれもお体を大切にしてください。

村松さんの紹介

現職 ・有限会社「若松家」代表取締役

・いこいの郷「山野園」園主

公職 ・雲南市木次町地域安全推進委員青少年健全育成部会部長

・雲南市空缶積み上げ大会実行委員長

・雲南市斐伊地区青少年育成協議会幹事

・うんなん木次走友会事務局

ショートケーキを贈るボランティア活動の主な経歴（昭和52年より始める）

・大原郡の保育所・幼稚園に100個贈る

・阪神淡路大震災地の長田区全幼稚園に約1400個贈る

・鳥取県西部沖地震での被災地の伯太町の保育所・応急仮設住宅に355個贈る

・新潟県中越地震の被災地の山古志村の避難個所に約1700個と十日町の避難箇所・老人ホームに約300個贈る

・山古志村被災者の応急仮設住宅に1800個贈る

・新潟県柏崎市の応急仮設住宅に1630個贈る

・島根県立大学学生平岡都さんの事件の起きた浜田市全幼稚園に、園児・保護者の気持ちが和らぐように300個贈る。

・集中豪雨の土砂で被害の大きかった山口県防府市ライフケア高砂に307個贈る

・台風9号で被害の大きかった兵庫県作用町の仮設住宅と公立老人ホームに220個贈る

・乃木保育所・わかたけ学園・幼保のぎに365個贈る

・東日本大震災での被災地宮城県東松島市の避難所に2100個贈る

・台風12号で被災した和歌山・奈良両県の福祉施設など6箇所に550個贈る

（これまでに贈ったショートケーキは6万5千個ほどになるそうです。その他に、空缶積み上げ大会を考案。雲南市空缶積み上げ大会をはじめ、全国でチャレンジデーなどで開催されています。皆様の参加とご支援をお願いいたします。詳しくは村松さんのホームページをご覧ください。）



フィンランドのサンタクロース村にて（左より二人目）

在校生の活動

今年は猛暑に見舞われた夏となりましたが、そんな中、本校6名の生徒たちが東日本大震災島根県災害ボランティア隊の一員として宮城県南三陸町を訪れ、3日間瓦礫撤去や漁業・農業支援などの活動に汗を流しました。

6月に県の社会福祉協議会の依頼を受け、同隊の活動への参加者を募集したところ17名の志願者がありました。残念ながら全員の派遣は難しく、以下6名の生徒が派遣されました。

- <第1クール> 7/21(日)~25(木) 1年 安田拓也、井上響
- <第2クール> 7/29(月)~8/2(金) 3年 加藤遥香、土谷布由子、長妻美佐
- <第3クール> 8/4(日)~8/8(木) 3年 植田竜次



7月21日(日)第1クール出発式。右端から安田さん、井上さん。(いきいきプラザ駐車場にて)

6名の生徒がそれぞれに活動を終え、学校に報告に来て感想を述べた姿を見て、出発前よりたくましく、一回り成長したと感じました。以下、参加した生徒の感想の一部を紹介します。

最終日に行った地域で瓦礫撤去をしました。林の斜面に家が流れていて全壊したような場所で活動しました。木材を撤去していくと子ども用のおもちゃや箸といった日用品がたくさん見つかりました。学校へ行くこと、家族がいること、家があることが当たり前であるような気がしていますが、改めて、当たり前ではない、普段の生活に感謝していかなければならないと思いました。このボランティアに行ったことで、私はもっと今の生活に感謝していこうと思いました。

南三陸町の復興には、まだ何十年もかかりそうですが、日本中で応援していかなければなりません。そのためにまず私たちにできること。それは、被災地のことを伝えていくことです。多くの情報を伝え、一人でも多くの方々がボランティアに参加していただけるよう努めていきたいと思います。

とても短い時間で、出来ることはまだまだあったと少し悔いは残ったが、とても充実した時間になった。宮城県で見た現状、地元の方々の気持ち、向こうで出会った人たち、一つ一つを全て大切にしたい。また、これから自分にできる被災地への支援、それは、震災という出来事を風化させないことだと思った。最近はメディアなどでなかなか出てこなくなった。すると人々は確実にその時の悲惨な記憶を忘れ、今もなお支援が必要とされていることに気づけず、復興が遅れてしまうと思う。だから僕は、まだまだ支援が必要だということをたくさんの人に呼びかけ、少しでも被災地へ協力していきたい。

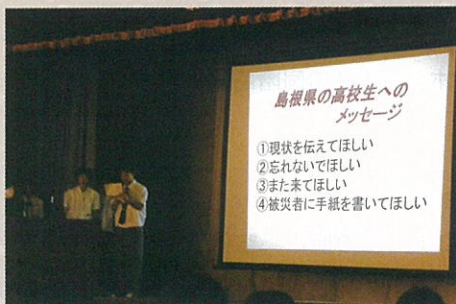
一日目の活動は畑の再生で、石の除去をひたすらしていました。一日中やっていたのに全く進まなくて、この作業を一人でやったらすごい時間とすごい労働力が必要で、改めて家族や仲間ってというのは大切なんだと思いました。二日目も同じ作業でした。こんな小さな作業で本当に役にたっているのかって不安になりましたが、現地の方がちゃんと役に立っていると言って下さったというのを聞いて、役に立っているんだという安心感と共に、気持ちを相手に伝えるということも大切なんだと知りました。日ごろの感謝の気持ちなどをちゃんと相手に言うことで初めて伝えたということになると教わりました。



第2クール校長室での活動報告
(左から土谷さん、加藤さん、長妻さん)

私がボランティア活動をしたのは南三陸町という町で、震災前は漁業が盛んな、どこにでもある平和ですてきな町でした。私は写真でしか見たことがないけど、そう感じました。現地に着いて目にした光景は、建物はなく、草が生い茂り、錆びた鉄や曲がった橋などで、写真と現実との違いを、すぐに受け入れることができませんでした。正直、ここに町があったなど、想像することはできなかったです。

(中略) このボランティア活動を通して、今自分がいるこの環境に感謝して生活することの大切さや、家族がいる幸せ、命の尊さについて感じ、考えることができました。今を大切に生きたいと思います。そして、私は将来必ず復興した南三陸町を見に行きたいと思います。また、周りの人や、自分に子どもができた時には、こういう経験をして、こう感じたんだという話をしたいです。そして、多くの人にこのような活動に参加してもらいたいと思います。



学園祭での報告

八雲会 平成24年度事業報告と 平成25年度事業計画

平成24年度 事業報告

平成24年

- 4月25日(水) 監査会 (H23年度決算)
- 5月9日(水) 第1回校内幹事会
(役割分担、事業報告・計画、決算、予算、役員会)
- 5月14日(月) 役員会
(決算、予算、事業、総会)
- 6月25日(月) 第2回校内幹事会 (総会)
- 6月29日(金) 大東支部会 (成相)
- 6月30日(土) 関東支部会
(景山会長・校長・高橋)
- 7月14日(土) 八雲会総会

口演会：「お達者落語会」

講師：春雨や落雷 (安部正之氏)

- 7月21日(土) 広島支部会
(金築副会長・教頭・門脇)
- 9月下旬 会報「八雲」第49号発刊
- 10月14日(日) 関西支部会
(安原副会長・校長・高橋)
- 10月21日(日) 松江支部会
(景山会長・校長・高橋)
- 10月25日(火) 阿用支部会 (成相)
- 11月23日(金) 春殖支部会 (門脇)
- 11月28日(水) 海潮支部会 (高橋)
- 12月 日() 加茂支部会

平成25年

- 2月11日(土) 幡屋支部会 (高橋)
- 2月25日(月) 第3回校内幹事会 (入会式)
- 2月28日(木) 第65期八雲会入会式

平成25年度 事業計画

平成25年

- 4月30日(火) 第1回校内幹事会
(役割分担、事業報告・計画、決算、予算、役員会)
- 5月16日(木) 監査会 (H24年度決算)
- 5月16日(木) 役員会
(決算、予算、事業、総会)
- 6月8日(土) 関東支部会
(景山会長・校長・高橋)
- 7月2日(火) 第2回校内幹事会 (総会)
- 7月2日(火) 大東支部会 (高橋)
- 7月13日(土) 八雲会総会

大東高校 部活動 披露
吹奏楽部による演奏
茶道部によるお手前

- 7月20日(土) 広島支部会
(景山会長・校長・森山)
- 9月下旬 会報「八雲」第50号発刊
- 月 日() 阿用支部会 ()
- 月 日() 春殖支部会 ()
- 月 日() 海潮支部会 ()
- 月 日() 加茂支部会 ()
- 月 日() 穴道支部会 ()
- 月 日() 松江支部会 ()
- 月 日() 木次支部会 ()
- 月 日() 塩田支部会 ()
- 月 日() 佐世支部会 ()
- 月 日() 幡屋支部会 ()
- 月 日() 久野支部会 ()

平成26年

- 2月 日() 関西支部会 ()
- 2月 日() 第3回校内幹事会 (入会式)
- 2月28日(金) 第66期八雲会入会式

平成24年度 大東高校八雲会一般会計決算書

1 収入の部

(単位 円)

費 目	予 算 額	決 算 額	比較増減額	備 考
入 会 金	1,185,000	1,175,170	▲ 9,830	年額3000円×390名=1,170,000円
繰 越 金	1,691,857	1,691,857	0	前年度繰越金
雑 収 入	143	237	94	預金利息
合 計	2,877,000	2,867,264	▲ 9,736	

2 支出の部

(単位 円)

費 目	予 算 額	決 算 額	比較増減額	備 考
総 務 費	1,000,000	562,790	▲ 437,210	
会 議 費	450,000	220,580	▲ 229,420	役員会、総会費
旅 費	300,000	250,670	▲ 49,330	支部会出席旅費
通 信 費	70,000	22,765	▲ 47,235	郵券等
事 務 費	80,000	8,820	▲ 71,180	事務用品代等
管 理 費	100,000	59,955	▲ 40,045	会員登録、データ管理等
事 業 費	1,650,000	1,131,729	▲ 518,271	
八雲発行費	900,000	526,499	▲ 373,501	会報「八雲」印刷代、発送費等
支部助成費	600,000	480,000	▲ 120,000	関東、関西、広島、松江、大東、幡屋、阿用、春殖、久野、海潮、加茂支部
入 会 式	150,000	125,230	▲ 24,770	入会記念品（証書入れ、印鑑）
雑 費	100,000	3,000	▲ 97,000	香典
予 備 費	127,000	0	▲ 127,000	
合 計	2,877,000	1,697,519	▲ 1,179,481	

特別会計（積立）予算書	
平成23年度末残高	6,236,589円
平成24年度利息	992円
平成24年度末残高	6,237,581円

(収入総額) 2,867,264円 - (支出総額) 1,697,519円 = (差引残額) 1,169,745円・・・平成25年度へ繰越

平成25年度 大東高校八雲会一般会計予算書(案)

1 収入の部

(単位 円)

費 目	予 算 額	決 算 額	比較増減額	備 考
入 会 金	1,116,000	1,185,000	▲ 69,000	年額3000円×372名
繰 越 金	1,169,745	1,691,857	▲ 522,112	前年度繰越金
雑 収 入	255	143	112	預金利息
合 計	2,286,000	2,877,000	▲ 591,000	

2 支出の部

(単位 円)

費 目	予 算 額	決 算 額	比較増減額	備 考
総 務 費	840,000	1,000,000	▲ 160,000	
会 議 費	400,000	450,000	▲ 50,000	役員会、総会費
旅 費	300,000	300,000	0	支部会出席等旅費
通 信 費	40,000	70,000	▲ 30,000	郵券等
事 務 費	20,000	80,000	▲ 60,000	事務用品代等
管 理 費	80,000	100,000	▲ 20,000	会員登録、データ管理等
事 業 費	1,320,000	1,650,000	▲ 330,000	
八雲発行費	670,000	900,000	▲ 230,000	会報「八雲」印刷代、発送費等
支部助成費	600,000	600,000	0	関東、関西、広島、松江、宍道、加茂、木次、大東、春殖、幡屋、佐世、阿用、久野、海潮、塩田支部
入 会 式	50,000	150,000	▲ 100,000	入会記念品
雑 費	100,000	100,000	0	慶弔費等
予 備 費	26,000	127,000	▲ 101,000	
合 計	2,286,000	2,877,000	▲ 591,000	

特別会計（積立）予算書	
平成24年度末残高	6,237,581円
平成25年度利息	419円
平成25年度末残高	6,238,000円

平成25年度 八雲会役員一覧

役職	氏名	期	役職	氏名	期
顧問	川上 朋良	高3	副会長	奥井 彰	校長
	角谷 雄輔	高7		岩田 松子	高7
会長	景山 純孝	高9	監事	増田 敏男	高10
副会長	安原 重隆	高11		狩野 健吉	高18
	太田多美子	高13			
	金築 暎次	高14			

【理事】

地区	氏名	期	地区	氏名	期
大東	井上 禧宏	高13	幡屋	森山 武史	高25
	森脇 誠夫	高10		山崎 英志	高29
	太田 拓志	高13	加茂	金築 暎次	高14
	光谷由紀子	高18		梶谷 久光	高6
	安部 幸治	高24		岸本 邦夫	高19
春殖	横山 美昭	高20		斉藤 雅孝	高28
	木村 晋吾	高27		畑 宏明	高29
海潮	安達 茂	高13	加納 忠夫	高31	
	塩野 紀富	高9	高橋 雄二	高32	
	木村 昭憲	高17	木次	佐藤 弘之	高23
阿用	景山 源栄	高15	宍道	渡部 清美	高27
	荒木 貞治	高9	松江	林 透	高18
	朝日 幸子	高16		八幡 憲次	高19
	永瀬 康典	高18	広島	佐藤 和紀	高12
久野	堀江 善彦	高23	関西	広木 益夫	高16
	長沢 正也	高26	関東	鏑木 茂雄	高32
	長妻 賢二	高32		持田 啓司	高32
塩田	黒川 弘義	高18			
佐世	錦織 涿郎	高14			
	錦織 一夫	高17			

【代議員】

地区	氏名	期	地区	氏名	期
大東	糸川 栄一	高19	木次		
	狩野 泰秀	高20	宍道		
	小山 益男	高20	松江	岩橋 弘政	高18
	石川 辰子	高23		細木 勝美	高18
	狩野 恵子	高24	広島	佐藤 眞	高17
	山本 司	高32		三島 暎子	高17
春殖	糸原 優二	高33	関西	高橋 潮	高10
	田中 久志	高33	関東	佐藤 博芳	高32
海潮	新田 昭隆	高15	【八雲会支部長】 大東支部 井上 禧宏 幡屋支部 森山 武史 海潮支部 安達 茂 阿用支部 景山 源栄 佐世支部 錦織 涿郎 春殖支部 横山 美昭 久野支部 堀江 善彦 塩田支部 黒川 弘義 加茂支部 金築 暎次 木次支部 佐藤 弘之 宍道支部 渡部 清美 松江支部 林 透 広島支部 佐藤 和紀 関西支部 広木 益夫 関東支部 鏑木 茂雄		
	岩田 和義	高19			
	福岡 広明	高20			
	宮川 稔	高27			
阿用	陶山 隆之	高17			
	細木 康史	高19			
	木色 薫	高20			
久野	上代 英治	高29			
	三澤 郁穂	高35			
塩田	安達 隆重	高42			
佐世	安部 博	高18			
	高橋 敬二	高22			
幡屋	本多 昭人	高21			
	山崎 達夫	高24			
	舟木 忠夫	高24			
	田中 互	高37			
加茂	竹村 治美	高17			
	錦織 直行	高19			
	吉岡 敏隆	高27			

大東高等学校事務局		TEL (0854) 43-2511 FAX (0854) 43-2512	
事務局長 児玉 論 (教頭)	幹事長 高橋 隆正 高32	幹事 森山 智 高32	幹事 成相 智志 高33
幹事 大給 茂樹 (事務長)	幹事 門脇 康文 高39	幹事 堀谷 誠太 高59	幹事 小山美紀子

よろしくお願ひします。

第51回島根県高等学校総合体育大会結果報告

優勝
おめでとう!!

バドミントン部(男子)	学校対抗戦	
	個人シングルス	井田淳貴
	個人ダブルス	小村肇・山崎敬太組
空手道部(女子)	個人組手	渡部真奈美

祝
インターハイ
出場!!

バドミントン部(男子)	学校対抗戦	
	個人シングルス	井田淳貴、森山雄太
	個人ダブルス	小村肇・山崎敬太組
空手道部(女子)	個人組手	井田淳貴・森山雄太組 渡部真奈美

各部の結果

◎陸上部 (浜山公園陸上競技場)

女子砲丸投決勝 渡部瑠美 6位 (記録 8 m08) 中国高校陸上出場権獲得

◎女子ソフトボール部 (松江南高校グラウンド)

一回戦 松江南高校 4-6 大東 二回戦 松江商業 4-3 大東

◎バドミントン部 (カミアリーナ)

男子学校対抗戦 決勝戦 大東 3-0 松江北 → 優勝

男子シングルス 優勝・井田淳貴 準優勝・森山雄太 ベスト4・山崎敬太
ベスト8・白根、小村、細木 ベスト16・内田、佐藤
ベスト32・錦織 その他1・2回戦敗退

男子ダブルス 優勝・小村山崎組 準優勝・井田森山組 ベスト4・細木佐藤組
ベスト8 白根内田組 その他1・2回戦敗退

インターハイ出場権獲得→学校対抗戦、シングルス井田・森山 ダブルス小村山崎組、井田森山組

女子学校対抗戦 一回戦 大東 2-3 松江南高校

女子シングルス 山原 2回戦敗退 和久利 ベスト16 他1回戦敗退

女子ダブルス 和久利・山原 ベスト16 他1回戦敗退

◎男子バスケットボール部 (県立体育館)

1回戦 大東67-81浜田商

◎男子バレーボール部 (浜山体育館)

2回戦 大東 2-0 出雲工業 準々決勝 大東 2-1 松江高専

準決勝 大東 0-2 安来 → ベスト4

◎女子バレーボール部 (松江商業高校)

2回戦 大東 2-0 出雲北陵 3回戦 大東 2-0 浜田

準々決勝 大東 0-2 安来 (ベスト8 7年ぶり)

◎卓球部 (益田市民体育館)

男子学校対抗 1回戦 3-1 対矢上高校 2回戦 0-3 対松江南高校

男女シングルス 3回戦までで敗退

男女ダブルス 2回戦までで敗退

◎剣道部 (大田市民体育館)

男子団体 1回戦 大東 1-3 飯南

女子団体 1回戦 大東 3-2 矢上 準々決勝 大東 0-4 横田 (ベスト8)

男子個人戦 佐藤・小林・野々村 1回戦敗退

女子個人戦 柳楽・持田 1回戦敗退 石原・永瀬 2回戦敗退

◎ソフトテニス部（浜山公園テニスコート）

男子団体 1回戦 大東0-3 松江高専
 男子個人 安部・石原組 3回戦敗退、その他6組 1・2回戦敗退
 女子団体 2回戦 大東0-3 隠岐
 女子個人 全3組 1・2回戦敗退

◎空手道部（松江南高校）

男子団体形 1回戦 大東0-5 松徳学院 → 3位
 男子団体組手 1回戦 大東2-3 松徳学院 → 3位
 女子団体形 1回戦 大東0-5 松徳学院 → 3位
 女子団体組手 決勝戦 大東2-2 松徳学院（松徳学院の内容勝ち） → 2位
 男子個人形 ベスト8 植田竜次
 男子個人組手 ベスト8 植田竜次
 女子個人形 ベスト8 山本成美

女子個人組手 優勝 渡部真奈美→インターハイ出場権獲得

3位 山本成美 4位 新田妃依 ベスト8 八幡垣仁美、永瀬珠実

男女総合Bグループ2位

男子Bグループ2位
 女子Aグループ19位

第50回（H24）	男女総合	Bグループ優勝	（男子総合B優勝、女子総合A 8位）
第49回（H23）	男女総合	Aグループ13位	（男子総合B 2位、女子総合A 9位）
第48回（H22）	男女総合	Bグループ2位	（男子総合A13位、女子総合A16位）
第47回（H21）	男女総合	Aグループ9位	（男子総合A 9位、女子総合A 7位）
第46回（H20）	男女総合	Aグループ15位	（男子総合A21位、女子総合A 7位）

全国高校総合体育大会の結果（8月）

◎バドミントン部 学校対抗戦 1回戦 大東 3-0 星陵（静岡）
 2回戦 大東 0-3 富岡（福島）
 男子ダブルス 1回戦 井田・森山 0-2 名経大市邨（愛知）
 1回戦 小村・山崎 2-0 大曲工（秋田）
 2回戦 小村・山崎 0-2 新田（愛媛）
 男子シングルス 1回戦 井田 2-1 西武台千葉（千葉）
 2回戦 井田 0-2 八代東（熊本）
 1回戦 森山 2-1 奈良大附（奈良）
 2回戦 森山 0-2 埼玉栄（埼玉）
 ◎空手道部 女子個人組手 2回戦 渡部 0-6 旭丘（愛知）

□野球部 第95回全国高等学校野球選手権大会（松江・浜山）

1回戦 大東 9-1 松江高専 3回戦 大東 5-4 出雲西
 2回戦 大東 5-0 益田 準々決勝 大東 1-14 開星

□吹奏楽部 第54回全日本吹奏楽コンクール島根県大会（出雲市民会館）

高等学校Aの部 銀賞

□写真部 春季写真コンクール（出雲北陵高校）

特選：金森えみ、油谷美穂、丹波綾香、和久利水青子、池尻万耶、佐藤江理
 岩田奈巳、長谷川柚香

卒業生の進路状況について

進路指導部

(1) 進路概況 (過去3年間)

進路別	卒業年	平成22年度	平成23年度	平成24年度
進学		94	125	113
就職		14	19	21
進学準備		5	1	6
計		113	145	140

(2) 進学状況 (平成24年度)

項目	合格者数	進学者数
国公立4年制大学	17	16
私立4年制大学	48	31
公立短期大	14	9
私立短期大	14 (1)	13 (1)
医療系専門学校	22	20
その他の専門学校	25	25

() 内は過年度卒 (内数)

(3) 就職状況 (平成24年度)

項目	事務	営業・販売	技能職	公務員・公的団体	計
県内	1	5	8	2	16
県外	1	0	2	2	5
計	2	5	10	4	21

今春の卒業生の進路状況は左記の表の通りです。

進路状況としては、大きな変化はありません。就職の希望者が15%程度は毎年あります。県外就職を考えるものは特定の企業に限った志望でわずかであり、県内就職希望が圧倒的です。今春も地元企業から例年以上の求人を出していただき、その点では大変助かりましたが、近隣の他校でも地元志向の生徒が多いため、実際受験すると狭き門であって苦戦しました。公務員志望者では島根県職・香川県警や学校事務等に合格者がありました。一方、中には進路変更等で卒業時まで就職先を探す生徒もおります。地元で高卒求人を出していただける情報がありましたら、ぜひお寄せいただきたいと思います。

進学では、この春の大学入試センター試験の難化によって国公立大学志望者には厳しい結果でした。全国の志望者と競う学力と最後まであきらめない気

力をつけていく指導を続けていきたいと感じます。また近年の、医療系・教育系志望者が多い傾向は続いています。ここでも地元志向が強く、県内の大学・短大・専門学校等を中心に進路を考えていく傾向にあります。地域で学び、地域に貢献したいと考える生徒が多いことはうれしいことです。地域社会から寄せられる期待に応えてくれるように頑張りたいと思うと同時に、皆様にも見守っていただきますようお願いいたします。

今年度6月に46期卒業生の三澤誠様にはご多忙にもかかわらず、1・2年生に向けてご講演をいただきました。地域に現金収入を得る術を創出したいとの思いからチャレンジ精神を持ち事業を展開されている姿勢を教えていただき、生徒には大きな刺激をいただきました。ひたむきに努力する姿勢を伝統として受け継いで、在校生にも夢に向かって進路を切り拓いてほしいと願っています。

最後になりましたが、八雲会会員様のもとで、あるいは近いところで、就職・進学している卒業生がおりましたら、励ましの言葉をかけていただきますよう、何卒よろしく願いいたします。

編集後記

会報「八雲」の発行に際しましては、ご多用の中、今年も多くの皆様のご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

2018年(平成30年)の創立100周年まであと5年です。校内でも100周年へ向けて準備を進めておりますが、卒業生会のネットワークの力なくしてはできません。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

これからも各地で行われる支部会や、同窓会などの情報、各方面で活躍中の皆様の紹介記事などを載せネットワークをさらに広げていきたいと思っています。皆様からの情報、寄稿をお待ちしています。

また、学校の様子など、逐次大東高校ホームページに掲載していますので、どうぞご覧ください。

大東高校内八雲会
本部事務局

島根県立大東高等学校 〒699-1251 島根県雲南市大東町大東637
TEL (0854)43-2511 FAX (0854)43-2512 E-mail: daito-01@shimanet.ne.jp
新ホームページ <http://www.daito-h.ed.jp/>